

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	たまてばこ		
所在地	(〒232-0066) 横浜市南区六ツ川2丁目107番43号		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

第2回目のたまてばこバザー（H22年11月3日）を開催しました。ボランティアの方と担当職員とで手作りのフルーツケーキ焼き、他にも焼きそば・ポテトフライ・産地直送のみかん等を販売してみました。ご利用者様、ご家族様、地域の方々、他施設へ入所された、ご利用者様（数名）と職員の方もご参加して下さい、久しぶりにお会いし和やかなふれあいを感じることが出来ました。また、秋晴れの中、屋外コンサートでは、トーンチャイム&リコーダー演奏があり、音楽の音色を楽しんで頂き、活気あふれるバザーを開催することが出来、更に地域交流を深めることが出来ました。 ご利用者様の健康管理については、職員間の連携により、きちんと把握が出来ており、突発的なことが発生した場合にも迅速に対応することを目指している。 ご利用者様、お一人おひとりを尊重し、その人の生活リズムに合わせてながらケアを行っている。 ご利用者様の健康状況を把握し、なるべく買い物や戸外へ出かけ楽しんで頂いたり、他ユニットのご利用者様と合同で外出やレクリエーション等を行い交流を深めている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄8階		
訪問調査日	平成23年2月21日	評価機関 評価決定日	平成23年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 当事業所は京浜急行線・弘明寺駅から約1.5km、県道218号線から少し入った閑静な住宅街にある。駐車場は広く、小規模多機能型サービスや居宅介護支援事業所が併設され、2階と3階が2ユニットのグループホームとなっている。利用する人が住みなれた地域で、これまでの生活を持続できるよう配慮しながら、きめ細かな支援をしていくことを理念としている。 【利用者個々の必要に合った介助や支援の実践】 介護計画作成担当者を中心にして作成される介護計画を忠実に実行することで日常生活での支援をしている。職員は主に担当する利用者個々の、その日の状態をよく見ており、その時に必要な随時の判断を管理者に伝え、きめ細かな介助が出来るよう努めている。状況の変化などの日常のちょっとした出来事でも、申し送りやスタッフミーティングで話し合い、介護計画の見直しに反映させ、利用者主体の暮らしが持続できるよう配慮している。声かけも利用者の目線に合わせて行うなど丁寧なケアが行われている。 【古くなった機器などを有意義に使う工夫】 古くなった電気炊飯器や電気掃除機も有効に活用している。また、物品の整理・分類などに、使わなくなった用具や部品を利用するなど、職員のアイデアが随所に活かされている。 【小規模多機能型居宅介護との連携】 小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、グループホームを利用者が、通いや泊りを利用している人たちと交流できる。また、職員も相互に連携している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまてばこ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本として、地域密着型サービスとしての理念を職員全員の意見から吸い上げ、施設単位での理念を作りあげた。フロアでも、更に理念を意識を高め実践につなげている。	法人の理念とは別に、平成19年に独自の理念を職員全員で作った。理念はスタッフミーティングの折に話している。理念を全員が名札カードとともに携帯している。「寄り添う介護」は現場の職員にも浸透しており、介護に活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員及びご利用者様を含め、外出時等、近隣住民への挨拶を心がけたり、施設内でのイベント企画を実施する際も、ご利用者様と職員が一緒に地域住民の方へイベント開催のお誘いを行い交流に努めている。	自治会に加入し、防災訓練やバザー等のイベントの開催案内を回覧している。自治会の夏祭りや餅つきに参加したり、保育園児の訪問等がある。バザーを開催し、近所の方々の協力や家族の参加でにぎわった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にある地域包括支援センターの月毎に開催している学習会に参加し、認知症ケアの実践や取り組みをお話させて頂いた。また、民生委員の方の困っていることや介護支援サービスの内容など説明し、対応に努めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で会議を開催出来ていないが、極力出来るよう努めたい。実施の際は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き、向上出来るよう努めている。	昨年は1月と7月の2度開催した。利用者家族や地域包括支援センター職員、民生委員、家主が参加した。報告やバザーの開催などのほか、防災訓練を一緒に行うなどの意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区からの要望があり、認知症高齢者をもつ家族の集いに参加し、施設での実践や取り組み等をお話させて頂いた。また、個々の家族の家庭で困っていることや介護支援サービスの内容など説明し、対応に努めた。	生活保護受給者を受け入れており担当者と連携している。9月に区からの依頼で「認知症介護者の会」で講演を行った。空き情報やスプリンクラー設置で担当者と連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、身体拘束をしないケアについての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。	身体拘束は行わないと宣言し研修を行っている。10月に全職員を対象に研修を行い、再確認した。小規模多機能型居宅介護と入り口が同じ1階は保安上施錠しているが、2階3階の施錠は行っておらず、エレベーターで自由に行き来できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、虐待防止についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方が共有出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、権利擁護についての研修機会を設け学びにつなげている。個々にその必要性がある時も関係者と十分に話し合い活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解約も含む）を十分に説明し、ご理解を頂いた上で、締結している。また、改定の際は、家族会を通して十分に説明をしてご理解・了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に意見投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。 また、投書内容については、常務理事を含め、管理者が運営会議上で検討する機会を設けている。検討事項については、館内会議においてスタッフに周知されている。	意見箱を置いているが、意見・要望は家族会やイベントで家族が集まった折に話し合っている。他にも居室担当の職員が近況報告を送っており、面会や電話の折に話してもらっている。家族会で挙がった意見により、職員の名札の字を大きく書き換えた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に、投書箱を設置し、運営に関するご意見及び提案を行える体制を行っている。 また、法人の全体会議や当施設内の全体会議・館内会議・スタッフ会議においても、意見や提案が出しやすいよう配慮している。	全職員が参加する、年に1回の「全体会議」に向けて「職員会議議題提案書」用紙があり、事前に意見を出して皆で検討している。各会議のほか「連絡ノート」でも意見が提案されている。管理者は職員の意見を大切にしており、小さいことでも意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。給与水準・役職への導き等についても考慮し、法人事務局へ相談・申し入れを行い、スタッフの力量を低下しないよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、職員一人ひとりの力量を把握し、状況に応じては、面談の機会を設け双方で確認し合っている。 また、内外研修に参加させ、スキルアップへの向上につながるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会への加入、地域包括支援センター・他施設の法人等との連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご本人の希望や困っていることがないか相談援助を行い、ある程度の共同生活上の決まりはあるが、自分らしく安心した生活が送れるように支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご家族の不安や要望を十分に把握して、地域密着型サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援を行うことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族様の相談内容を十分に見極め、その時の状況に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等も含め支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との触れ合いにおいて、場の感情を共有することを重んじて対応に努めている。ご利用者様がこれまで担ってきた手作業の技術を学び、ご利用者様と共に作業にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院機関以外のこれまでの馴染みのかかりつけ医等への受診、館内行事や各個人単位の外出等において積極的に家族に協力して頂き、ご本人との関わりをもって頂けるよう努めている。また、ご家族様に相談やご意見やご協力を頂き、共に、ご利用者様を支えていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域からの入居が多数であるため、入居前の民生委員やご友人、親族の面会、電話の取り次ぎ、これまでの関係が途切れないように努めている。また、手紙を書く機会を設けている。	利用者が行きたいと切望していた元職場に、職員が同行し元上司やご家族との再会が出来た。家族からの電話の取り次ぎをしている。退居された利用者のご家族がホームを訪問することもあり、関係を継続している。買い物や外出で馴染みの場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者各々のA D Lの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、できるだけ多くのご利用者様が参加していただけるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者様に対しては、職員が間に入りコミュニケーションが円滑に出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所されたり、サービスが終了した場合であっても、施設内のイベント開催を行う時は、お誘いをし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族様との関係を継続出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いてご利用者様の意向の把握に努めている。また、会話の中からも、思いや意向を引き出せるよう努めている。	月1回のスタッフミーティングで利用者全員のカンファレンスを行っている。普段の問いかけや会話からアセスメントを行い、月に1回センター方式の「個人図」を書き換えている。本人の希望により、職員とともに以前に働いていた職場を訪問したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いている。グループホームでは、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式を用いている。また、入居後の共同生活の場の暮らし方等についても不都合が生じていないか確認する。また、心身状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式により、ご本人及びご家族、その他関係者（居宅介護支援専門員）から吸い上げた情報から介護支援専門員及び居室担当者が施設サービス計画を作成し、それに基づいて介護計画を作成している。	居室担当者が中心となり本人の意向をよく聞き取っており、カンファレンスで話し合っている。「介護計画書の目標に沿って丹念に支援を行うことで、次の目標が見えてくる」と考え、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践内容については、業務日誌や個別ケース記録に記入、ケアプラン実施表に記入し、特変状況については、職員間で連絡ノートに記載し、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特性（小規模多機能型居宅介護）を活かし、職員間で協力体制をとり柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けたりして、ご利用者様が安心して暮らせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族等の希望を受け、希望者には、入居後も馴染みのかかりつけ医への受診をご家族の協力を得ながら実施している。入居後は協力医療機関からの隔週の往診を受けている。また、地域訪問歯科、泌尿器科、皮膚科の協力を得ながら、健康維持に努めている。	入居前からのかかりつけ医に入居後も引き続き通院する場合は、家族の協力を得ている。家族の都合がつかない時には事業所が対応することもある。この際には「受診時報告書」を作成し、かかりつけ医にも診察内容を情報提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導、援助を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時におけるMSW及び担当医とムンテラに参加する等、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づきご本人及びご家族に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、契約時に同意書を書いてもらっている。これまではターミナルケアを行った事例は無い。医療の協力が得られれば看取りも行っていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、他での事例の状況等を学び、隔週での往診医から応急手当や初期対応の指導を受けている。また、法人での救命講習研修に参加していただき実践力を向上するよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回の総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。また、地域にある消防署の協力を得て署員による防災訓練の指導を受けていることや、地域住民の方にも参加して頂き協力体制を築いている。	8月に、地域の協力を得て消防署と合同で夜間を想定して訓練を行った。非常時通報協力機関に自治会が加わり、打ち合わせも出来た。防災グッズや、備蓄は3日分を確保し、非常災害時に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）を心がけている。個人記録に関しては、書庫にて管理している。当日の記録等については、バインダーに挟み伏せて直接目に触れない様努めている。	理念の「寄り添う介護」を実践し、声かけ時に目の高さを合わせるなど配慮している。親しくても「ちゃん」付けで呼ばず、利用者を「先輩」として気持ちを考えるケアを徹底している。当日も外部の訪問者を紹介するなど配慮していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや願いを聞き、自己決定、自己表現が出来るように努めている（思い出の場所への外出、食べたい物の提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアー清掃や、居室清掃、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが、自由参加となっている。当日の勤務体制にもよるが、突発的な外出や食事等にも随時対応してご利用者様の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理美容業者が来館するため、その際に、ご利用者及びご家族様の希望により理容・美容サービスを受けていただいたり、外出の際に、洋品等を購入し、おしゃれを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の主菜については、法人本体と同じメニューを当施設調理職員が調理して提供している。汁物の下ごしらえの準備や味見をして頂く。階下の調理室へ食材をとりに行く、配膳後の片付け、また、季節によっては、ベランダのプランターに植えた野菜を収穫し、料理し味わう楽しみをもって頂いた。	職員も同じテーブルで同じ食事を取り、楽しい会話をしている。利用者も一緒に後片付けをしている。週に2回は希望を聞いて利用者と共に食事を作ったり、外食をしている。行事食にも力を入れ、ベランダで育てた野菜の収穫で季節を取り込んでいる。おやつも手作りにしたり、ベランダでお茶を飲むなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立による昼食・夕食の設定量を参考にしている。食事量については、その都度計測している。水分量に関しては、定時水分提供時間（三食提供時、10時、3時のおやつ時、就寝時）を含め、摂取量を計測し、1日を通して確保出来る様にし、不足ぎみの場合も職員で把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、居室または、共同洗面所においてご利用者にして頂いている。自力で困難な利用者様には、職員が支援している。夜間においては、義歯を預かり毎晩または、定期的に洗浄剤につけ除菌、消臭を実施している。また、地域訪問歯科医に相談をし、指導、援助を受け、個々の口腔ケアにあった支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し、援助している。また、排泄の失敗で気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いのかケアにならないようご利用者様と職員との間で良い方法を見つけ対応出来るよう努めている。	チェック表でパターンを把握し、自立に向け声かけを行っている。必ず声かけしたり終わった頃にお世話するなど、さりげなくトイレに付き添うようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に出来るだけ体を動かして頂く為に、体操を頻回に行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材使用した食事を提供している。これらの取り組みをしても便秘が改善されないご利用者様に対しては、個別に往診医師に相談し、内服薬の処方を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現時点の職員体制の観点から常時入浴が出来る体制は困難である。入浴時間、入浴日の指定をしまっているが、身体状況によっては、追加入浴をしたり、また、ご利用者様の要望で当日の入浴を別の日への変更を受け入れたり個々に応じた入浴の支援を実施している。	週に2回以上の入浴としているが、押し付けにならないように支援している。菖蒲湯や柚子湯などの行事湯を楽しんでもらっている。入浴したがいらない利用者には時間をずらして声かけしたり、お気に入りの職員をつけるなど工夫している。希望があれば夜に入ることもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に屋外からの灯りを遮断して安眠できる居室状態を保つ為に、遮光入りカーテンを使用している。また、各々の生活習慣を重視した上で、昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理一覧表を作成しており処方服薬内容の周知徹底をしている。薬が新しく処方されたり変更になった時は、速やかに職員で情報を共有し把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。また、植栽や館外清掃、食事の片付け、場面において各々の得意作業に参加して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び当日の職員体制にもよるが、戸外への外出支援（主に買い物・ドライブ）を適宜実施している。	買い物やドライブなど希望を聞いて外出している。天気の良い日は散歩に誘ったり、車でドライブや買い物に出かけている。ベランダに出てみたり、屋上で体操をしたり外気を吸って気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様それぞれの小口現金をご家族様よりお預かりして、ご家族様の了解の上で、ご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際に、自由に使用出来るよう支援している。また、現金の取り扱いの困難なご利用者様には、職員が対応出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話及びご利用者様から電話をかけたい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。葉書の購入や投函も含めて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時や合間で空間に臭気が停滞しないよう適宜換気に努めている。また、共有部分の空調に関しては、ご利用者様の身体状況に応じて温度調整を実施している。空間の演出として、ご利用者様の手作り品や季節に合った掲示品の交換等で季節感の工夫を行い、楽しんで頂けるよう対応している。	エレベーターフロアを玄関と考え、ソファを置いたり昔の道具を飾ったりしている。居間には大きなテレビがあり机も組み合わせて使用できるよう工夫されている。畳の部屋で洗濯物をたたんだり訪問医の診察を受けられる。当日は雛飾りがあり、利用者の作品も飾られていた。屋上やベランダも工夫して使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、食堂でのご利用者様の座席が決まっているが、新入所者様が入居した際は、座席替えに協力して頂き、他のご利用者様と馴染めるようにしている。他にソファや椅子を設置し、各々のご利用者様が安楽に過ごせる居場所が作れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内で使い慣れた好みの家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族様の意思の尊重した上で、転倒等の危険性に配慮した、居室空間のお手伝いを居室担当者が中心になって実施している。	広い居室はベッドや机、たんすやテレビなどを持ち込み、思い思いのしつらえになっている。写真や作品、植木鉢なども飾られている。職員も各居室を担当し、掃除や飾り付けなどを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近に、ご本人の居室であるか確認出来るよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室、洗濯場の表示をして理解できるように工夫をしている。共有部分においてはご利用者様の歩行の妨げにならない様、物品の設置等十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	たまてばこ		
所在地	(〒232-0066) 横浜市南区六ツ川2丁目107番43号		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日、必ず体操を実施している。身体を使ったレクリエーションを行い、レベル低下を防ぐよう職員が意識し、力を入れている。（毎食前の口腔体操も含む）
ご利用者様が、ゆとりをもって過ごして頂けるように、その方の生活リズムに合わせ、寄り添い、温かい声かけでコミュニケーションを図っています。
ご利用者様がいきいきと生活できる環境づくりを目指している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまてばこ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本として、地域密着型サービスとしての理念を職員全員の意見から吸い上げ、施設単位での理念を作り、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員及びご利用者様を含め、外出時等、近隣住民への挨拶を心がけたり、施設内でのイベント企画を実施する際も、ご利用者様と職員と一緒に地域住民の方へイベント開催のお誘いを行い交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にある地域包括支援センターの月毎に開催している学習会に参加し、認知症ケアの実践や取り組みをお話させて頂いた。また、民生委員の方の困っていることや介護支援サービスの内容など説明し、対応に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で会議を開催出来ていないが、極力出来るよう努めたい。実施の際は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き、向上出来るよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区からの要望があり、認知症高齢者をもつ家族の集いに参加し、施設での実践や取り組み等をお話させて頂いた。また、個々の家族の家庭で困っていることや介護支援サービスの内容など説明し、対応に努めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、身体拘束をしないケアについての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、虐待防止についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方が共有出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、権利擁護についての研修機会を設け学びにつなげている。個々にその必要性がある時も関係者と十分に話し合い活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解約も含む）を十分に説明し、ご理解を頂いた上で、締結している。また、改定の際は、家族会を通して十分に説明をしてご理解・了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に意見投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、投書内容については、常務理事を含め、管理者が運営会議上で検討する機会を設けている。検討事項については、館内会議においてスタッフに周知されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に、投書箱を設置し、運営に関するご意見及び提案を行える体制を行っている。 また、法人の全体会議や当施設内の全体会議・館内会議・スタッフ会議においても、意見や提案が出しやすいよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。給与水準・役職への導き等についても考慮し、法人事務局へ相談・申し入れを行い、スタッフの力量を低下しないよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、職員一人ひとりの力量の把握し、状況に応じては、面談の機会を設け双方で確認し合っている。 また、内外研修に参加させ、スキルアップへの向上につながるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会への加入、地域包括支援センター・他施設の法人等との連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご本人の希望や困っていることがないか相談援助を行い、ある程度の共同生活上の決まりはあるが、自分らしく安心した生活が送れるように支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学時において、ご家族の不安や要望を十分に把握して、域密着サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援を行うことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族様の相談内容を十分に見極め、その時の状況に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等も含め支援出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との触れ合いにおいて、場の感情を共有することを重んじて対応に努めている。ご利用者様の背景を知り、これまで担ってきた手作業（裁縫等）の技術を学び、ご利用者様と共に作業にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院機関以外のこれまでの馴染みのかかりつけ医等への受診、館内行事や各個人単位の外出等において積極的に家族に協力して頂き、ご本人との関わりをもって頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域からの入居が多数であるため、入居前の民生委員の方やご友人、親族の面会、電話の取り次ぎ、これまでの関係が途切れないように努めている。 また、手紙を書く機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者各々のA D Lの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、できるだけ多くのご利用者様が参加していただけるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者様に対しては、職員が間に入りコミュニケーションが円滑に出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所されたり、サービスが終了した場合であっても、施設内のイベント開催を行う時は、お誘いをし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族様との関係を継続出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いてご利用者様の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式によるアセスメントを用いている。グループホームでは、これまでの生活歴や馴染みの暮らし、また、日常生活の会話から情報を得るよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式を用いている。また、入居後の共同生活の場の暮らし方等についても不都合が生じていないか確認する。また、心身状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式により、ご本人及びご家族、その他関係者（居宅介護支援専門員）から吸い上げた情報から介護支援専門員及び居室担当者が施設サービス計画を作成し、それに基づいて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のご利用者様の記録を基に職員間で情報の共有し、ケアを実践している、個々のご利用者様のカンファレンス実施し、モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特性（小規模多機能型居宅介護）を活かし、職員間で協力体制をとり柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けたりして、ご利用者様が安心して暮らせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族等の希望を受け、希望者には、入居後も馴染みのかかりつけ医への受診をご家族の協力を得ながら実施している。入居後は協力医療機関からの隔週の往診を受けている。また、地域訪問歯科、泌尿器科、皮膚科の協力を得ながら、健康維持に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導、援助を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時におけるMSW及び担当医師とムンテラに参加する等、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 また、入退院時においても、ご家族様と密な連絡を取り、迅速な対応が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づきご本人及びご家族に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、他での事例の状況等を学び、隔週での往診医師から応急手当や初期対応の指導を受けている。また、法人での救命講習研修に参加していただき実践力を向上するよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回の総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。また、地域にある消防署の協力を得て署員による防災訓練の指導を受けていることや、地域住民の方にも参加して頂き協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）に心がけている。個人記録に関しては、書庫にて管理している。当日の記録等については、バインダーに挟み伏せて直接目に触れない様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや願いを聞き、自己決定、自己表現が出来るように努めている（思い出の場所への外出、食べたい物の提供） 意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロア清掃や、居室清掃、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが、自由参加となっている。当日の勤務体制にもよるが、突発的な外出や食事等にも随時対応してご利用者様の希望に添えるよう努めると共に、その方のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理美容業者が来館するため、その際に、ご利用者及びご家族様の希望により理容・美容サービスを受けて頂いたり、外出の際に、洋品等を購入し、おしゃれを楽しんで頂いている。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の主菜については、法人本体と同じメニューを当施設調理職員が調理して提供している。汁物の下ごしらえの準備や味見をして頂く。階下の調理室へ食材をとりに行く、配膳後の片付け等、準備段階より出来る限り関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立による昼食・夕食の設定量を参加考にしている。食事量については、その都度計測している。水分量に関しては、定時水分提供時間（三食提供時、10時、3時のおやつ時、就寝時）を含め、摂取量を計測し、1日を通して確保出来る様にし、不足ぎみの場合も職員で把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、居室または、共同洗面所においてご利用者にして頂いている。自力で困難な利用者様には、職員が支援している。夜間においては、義歯を預かり毎晩または、定期的に洗浄剤につけ除菌、消臭を実施している。また、地域訪問歯科医に相談をし、指導、援助を受け、個々の口腔ケアにあった支援をしている。、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し、援助している。また、排泄の失敗で気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いのかケアにならないようご利用者様と職員との間で良い方法を見つけ対応出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に出来るだけ体を動かして頂く為に、体操を頻回に行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材使用した食事を提供している。これらの取り組みをしても便秘が改善されないご利用者様に対しては、個別に往診医師に相談し、内服薬の処方を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現時点の職員体制の観点から常時入浴が出来る体制は困難である。入浴時間、入浴日の指定をしまっているが、身体状況によっては、追加入浴をしたり、また、ご利用者様の要望で当日の入浴を別の日への変更を受け入れたり個々に応じた入浴の支援を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に屋外からの灯りを遮断して安眠できる居室状態を保つ為に、遮光入りカーテンを使用している。また、各々の生活習慣を重視した上で、昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理一覧表を作成しており処方服薬内容の周知徹底をしている。薬が新しく処方されたり変更になった時は、速やかに職員で情報を共有し把握出来るようにしている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様のA D L及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。また、植栽や館外清掃、食事の片付け、場面において各々の得意作業に参加して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び当日の職員体制にもよるが、戸外への外出支援（主に買い物・食事・ドライブ）を適宜実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様それぞれの小口現金をご家族様よりお預かりして、ご家族様の了解の上で、ご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際に、自由に使用出来るよう支援している。また、現金の取り扱いの困難なご利用者様には、職員が対応出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話及びご利用者様から電話をかけたい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。葉書の購入や投函も含めて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時や合間で空間に臭気が停滞しないよう適宜換気に努めている。また、共有部分の空調に関しては、ご利用者様の身体状況に応じて温度調整を実施している。空間の演出として、ご利用者様の手作り品や季節に合った掲示品の交換等で季節感の工夫を行い、楽しんで頂けるよう対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、食堂でのご利用者様の座席が決まっているが、新入所者様が入居した際は、座席替えに協力して頂き、他のご利用者様と馴染めるようにしている。他にソファや椅子を設置し、各々のご利用者様が安楽に過ごせる居場所が作れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内え使い慣れた好みの家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族様の意思の尊重した上で、転倒等の危険性に配慮した、居室空間のお手伝いを居室担当者が中心になって実施している。		

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近に、ご本人の居室であるか確認出来るよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室、洗濯場の表示をして理解できるように工夫をしている。共有部分においてはもご利用様の歩行の妨げにならない様、物品の設置等十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		
----	--	--	---	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたまてばこ

作成日 23年 4 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現状、運営推進会議の開催が年2回である。今後は、開催頻度を見直す	地域包括センター・近隣地域の関係者、ご家族様のご協力を得ながら開催回数を増やす	新年度、施設の年間スケジュールを立て、実施していく	12ヶ月
2		今年度も施設内研修や外部研修の機会を確保し、職員のスキルアップの向上に努めたい	内部研修、外部研修の強化	新年度に向けて施設研修や外部研修のスケジュールを立て実施していく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。